

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102942		
法人名	ライト・ドリーム株式会社		
事業所名	グループホーム華の苑		
所在地	長崎市中里町1188-1		
自己評価作成日	平成26年12月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな地域の中で、民家を改築し家庭的な雰囲気の中で介護サービスを提供し、ご利用者様をはじめ、ご家族様が安心して生活できるようサービスを提供している。サービスを提供する上で、報告・連絡・相談を行ない、地域の皆様やご家族様を含めたチームケアを目指している。又、様々な行事(苑内外)などを実施し、生きがいを感じていただけるようなアプローチをしている。スタッフは家庭的な環境の中で、日常生活における援助を行ない、認知症の進行を穏やかに、また精神的に安定し、個人の尊厳が保たれ、健康的で自分らしい生活が送れるよう、利用者自身で出来ることは行ってもらい、自立を促す支援をしていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家改築型のホームは、地域や利用者が馴染みやすい雰囲気がある。ホームでは地域密着型事業所として、地域との関わりを大切にしている。自治会との連携により、回覧板と共にホーム便りを近隣宅へ配布し、ホーム活動の理解を得ている。その結果、運営推進会議や災害訓練への参加や地域敬老会への招待にとどまらず、日頃の交流や繋がりが広がっている。災害訓練では、地震を想定した訓練や外部研修に参加するなど、利用者の命を守るため真摯に取り組んでいる。また、各種委員会では委員会担当者が内容を職場に報告しており、向上心やチームケアとしての意識が高い。全ては利用者の尊厳の為であり、その為に労を惜しまないケアを実践している。介護計画の支援内容がわかりやすく、サービスの実践状況も的確に記録している。理念の一部「主体は入居の方です」が実践され、利用者の笑顔に繋がっているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム華の苑
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外壁掲示板に苑新聞を掲示するだけでなく、自治会に協力してもらい、各家庭にも配布し、地域の皆様に、苑の様子を知っていただけるようにしている。	3項目からなる理念は、各所に掲示している。職員は、日頃より理念を意識しながら介護支援に取り組んでいる。特に「主体はご入居の方」という部分を基に、利用者が自宅で過ごしていた生活が事業所でも継続出来るよう、利用者ごとに沿う支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の行事などに参加し、地域住民と交流する機会を作り、顔なじみの関係を作っている。	自治会に加入しており、ホーム便りを近隣に配布したり、外壁掲示板に掲示し、地域との交流のきっかけ作りに努めている。また、利用者が地域の敬老会に参加したり、保育園の運動会に出掛け、交流が広がっている。最近では、事業所で行った折り紙教室に自治会長が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方が見学に来た際は、利用者が苑でどのような生活をしているのか、支援方法を含め情報の提供をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事やインシデントアクシデント報告、研修報告などを通して、会議参加からの意見を頂き、今後よりよいサービスが提供できるようにしている。	年6回規程メンバーで開催している。遠方の家族も運営推進会議に合わせて来訪している。状況報告やヒヤリハット、事故報告の他、参加者が意見交換している。利用者の行動について会議で話し合い、参加者からアイデアを得て、実際に支援に反映している事例がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修にできる限り参加し、新しい知識を得て、よりよいサービスが提供できるようにしている。	年に1度、介護相談員が来訪している。日頃から認定申請や利用者のホーム利用に関する相談等で、行政担当部署と訪問や電話で連絡を取っている。地区の包括支援センターから案内があり「ハナミズキの会」に出向き、年6回認知症の講習など行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修等に参加し、身体的な拘束をしない環境づくりを行っている。	身体拘束ゼロの取り組みに関する外部研修に参加している。その後、受講者が講師役となり、事業所内で他職員へ伝達講習を開き、言葉掛けによる拘束も含め周知徹底している。利用者が外出しそうな時も、さりげなく声かけ等で対応し、拘束のない環境作りを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアがなされていないか、日頃のサービス内容をお互い確認し、虐待の防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフが利用者の権利擁護等について学べる機会を持てるよう努めている。日常生活自立支援事業など利用者に利用の必要性が生じた場合は、活用できるよう関係者と連携していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に同意を得ている。利用者本人、御家族が疑問に思う点については、丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会を設置し、玄関や契約書に記載し連絡が取れるようにしている。玄関にご意見箱を設置するだけでなく、面会時など御家族に接する際は御家族から要望を聞き、運営に反映をしている。	契約時に本人・家族に対して相談窓口や意見箱の設置を説明している。家族に向けてホーム便りや携帯メールで利用者の写真を送り、家族が相談や意見を話しやすいような雰囲気を作っている。面会時や電話等で要望などを積極的に尋ねている。設備についての要望も含めサービス向上に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議で、苑でのサービス内容について意見交換をしている。利用者、御家族への対応だけでなく、日常業務全般についても話している。	毎月の会議や日々の申し送りなど、職員が意見や提案をする機会がある。職員は必要な備品購入や希望休など要望を出し、管理者が対応している。代表は会議やホーム訪問を定期的に行い、ホームの状況や要望を把握し、職員が働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面接を定期的に行ない、スタッフ個々の体調を把握している。夜勤手当などの見直しも行った。また介護福祉士を取得したスタッフは評価するようした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の苑内研修を実施している。担当者は持ちまわり制にして、自己研鑽に努めている。また、外部研修にも積極的に参加できる環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームのイベント等に参加し、他事業所のスタッフと交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ご本人の要望を聞いたり、要望を伝えることが困難な利用者に対しては、ご本人が何を望んでいるのかを考え、また家族からも情報を得て、サービス提供に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	よりよいサービスを提供するためには、家族との関係も重要であるため、御家族が何を望んでいるのかを聞くように心がけ、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主訴に十分耳を傾け傾聴、そのニーズが何であるかを話してもらい、的確に把握するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護サービスを提供するだけではなく、これまで自宅でされてきた食事づくりなど、利用者の趣味に合わせ、一人ひとりの「その人らしさ」を引き出し、生活していただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時には、日頃の様子を伝え、また毎月日頃の様子を写真付きで紙面でお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院の受診の際は、馴染みのスタッフからの声掛けを頂くなどしている。	利用者の馴染みの関係は、本人・家族から情報を収集し、生活史にまとめ職員間で情報を共有している。家族や知人の面会は自由であり、家族の協力を得て法事や自宅への外出もある。馴染みの美容師がホームを訪れ整髪したり、家族との電話や手紙のやりとりを支援するなど、関係が継続するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は出来るだけリビングで過ごしてもらい、一緒に体操などの活動をし、お互い励まし合いながら、楽しんでいる様子が見られる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に御家族に連絡し、退去後の様子を伺うなど、契約終了で関係性を終わらせるのではなく、契約終了後も、今までの関係性を大切にしよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの「その人らしさ」を引き出す、個別ケアが提供できるよう努めている。	毎朝の着替えや朝食をパンかご飯にするかなど、日常生活の様々な場面で職員は利用者に問いかけ、意向を優先している。職員は会話の大切さを把握し、一人ひとりと話せるよう声を掛けている。発語困難な利用者には表情から状態を察知し、状況に合わせて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を、本人・御家族・主治医などから聞きだし、ご本人が希望されるサービスに少しでも近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のケア会議などで、利用者一人ひとりの日常についてアセスメントし、情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、御家族の意向を取り入れ、スタッフから日頃の生活での気付き等を出し、一人ひとりにあったケアプランを作成している。	短期3ヶ月、長期6ヶ月で介護計画を作成している。毎月モニタリングし、半年ごとに計画の評価・見直し及びアセスメントシートを見直している。記録はサービスの実施状況をわかりやすく記録している。入院時は医師や看護師と共にカンファレンスし、介護計画を見直している。計画は家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りに記入し、情報の共有をしている。利用者一人ひとりに支援するメインの担当者を決め、ケアの充実を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、御家族の意向を取り入れ、その人らしい「個別ケア」が提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、一緒に散歩へ出掛けるなどして、地域の方と会えば会話などしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診に加え、かかりつけ医への通院支援も実施している。	家族や職員の付き添いにて、かかりつけ医を継続して受診している。往診は2週間に1度、定期的に歯科医の往診もある。受診内容は、毎月のホーム便りに付けて家族へ郵送している。夜間等緊急時などは協力医に連絡し、指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化があった場合は、電話にて報告し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	速やかに情報提供を行っている。入院後には、定期的に面会に伺い、治療の状況などの情報を頂き、退院後の対応に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する方針を定め、御家族、主治医、看護師を交え方針を共有している。	重度化対応指針があり、利用開始時に説明している。まだ事例はないが、利用者の状況に応じ、医師や家族との話し合いの場を設け、状況が整えば看取りに取り組む方針である。ただし、終末期ケアの研修などの受講はなく、職員のフォロー体制などもこれからである。	ホームの看取りについての方針や支援内容など、職員と共に話し合える場を設けることが望まれる。また、終末期ケアについての勉強会を行うなど、チームで支援が出来るよう体制整備にも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を全スタッフに周知し把握してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練時には、消防署スタッフにも参加してもらい、職員の災害に対する意識付けをしている。また火災などの災害時には地域住民の協力が必要となるため、地域住民の方にも訓練参加のお声かけをしている。	消防署による総合訓練時には、自治会副会長が参加している。火元を特定して避難経路を変え、夜間想定も含め多様な訓練を行っている。地震想定は年1回訓練し、各居室に防災用ヘルメットを用意している。備蓄も準備がある。「命を守る研修」という外部研修に参加し、災害対策に力を入れている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、対応面で問題がないか、お互いがチェックしあい、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。	排泄や入浴介助、着替えなど羞恥心に配慮している。また、尊厳を重視した言葉遣いを心がけ、話し方についてはケア会議の議題として、職員間で共有し支援している。行動をする際には、必ず利用者に尋ね、判断を仰ぐよう周知し実践している。守秘義務や個人情報の取り扱いの勉強会もあり、職員に周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ご自身で洋服を決めてもらったりするなど、日常の生活の場面において、自己決定できるようなかかわりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設に合わせたリズムで生活してもらうのではなく、一人ひとりの生活のリズムを尊重し、利用者一人ひとりが自分のペースで生活できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、一緒に洋服を選び、おしゃれを楽しんでいただくなど、身だしなみの支援をしている。また定期的に理容師に来苑してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや、食べたい物を理解し、献立作成時に活かしている。下ごしらえや後片付けにも参加してもらっている。	旬の食材や利用者の嗜好、アレルギーなどに配慮した食事を準備している。給食委員会があり、季節行事や誕生会などの献立を作成している。日頃の料理下準備を手伝ったり、干し柿、おはぎ作り等の企画し楽しんでいる。誕生会の外食や喫茶店、バザーの外食など食べる事を楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量を記録し、体調管理に努めている。水分摂取量が少ない利用者には、繰り返し声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、誘導、介助など、利用者にあった口腔ケアの対応をしている。協力歯科医による往診もしていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、尿意のない利用者には時間をみてトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。	ホームではトイレ座位での排泄を支援している。排泄チェック表を作成、職員は利用者の排泄状況を把握している。利用者の下肢筋力状況から、リハビリパンツから布パンツに改善した事例や、尊厳を保つ視点から布パンツになった事例等、細かな配慮のもと、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、果物など通じがよくなる物を摂ってもらっている。主治医の指示のもと、便秘薬等も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、入浴日以外でも希望があれば対応している。失禁時などは清潔が保てるよう、シャワー浴が出来るようにしている。	週2、3回を目安に、入浴を介助している。状況に応じてシャワー浴等対応もある。1対1、もしくは2人介助を行い、必ず湯船に浸かれるよう支援している。本人の希望の湯温や柚子湯、菖蒲湯などの季節の湯など利用者が入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度、臭気には十分気をつけ、安心して過ごせる環境づくりを心がけている。就寝時間も特に取り決めもなく、利用者の生活リズムに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を介護記録にファイリングするなど、職員が利用者が何を服用しているのか把握できるようにしている。服薬マニュアルを作成し、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	下ごしらえ、洗濯など簡単な家事の手伝いをしてもらうことで、利用者一人ひとりの力を活かした役割を担ってもらっている。好きな音楽をレクリエーションに使うなど、楽しい雰囲気作りにも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事での外出以外に、散歩や買い物に同行してもらうなど、日常生活で外出する機会を作っている。	天候や利用者の体調に配慮しながら、外出を支援している。日頃は車椅子の利用者も一緒に、ホーム周辺の散歩やホーム菜園に出掛けている。その日の希望で外出することもある。桜や藤棚など季節を楽しむ遠出や、地域敬老会や祭など、利用者全員が外出を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	バザーに参加した際は、店員とのやり取りを利用者自身に任せ、スタッフは傍で見守るようなかわりをした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の少ない御家族に対して、電話をかけお話していただく機会を作るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂の温度、湿度、臭気、明るさなど十分注意し、快適に過ごせる空間作りを努めている。また季節を感じる掲示物をし、季節感を味わってもらう取り組みをしている。	民家改良型のホームの居間は居心地がよく、我が家にいる雰囲気があり、日当たりも良好で明るい空間である。職員は季節を感じる飾り付けを行っている。利用者がトイレまで不安なく行けるよう白線を引くなど配慮している。職員が換気・清掃を随時し、常に快適な環境を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階ホール、リビングにソファがあり、気のあった利用者同士で交流するスペースを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、御家族の写真、好みの飾りなどを自由に持ち込んでもらい、居心地のよい居室にしている。	居室には利用者の馴染みの筆筒等の調度類や小物など持ち込まれている。ベッドの配置や小物や写真等の飾り付けは、利用者や家族の意向を優先して対応しており、個性的な居室となっている。職員が毎朝掃除しており、換気を十分に行い、居心地のよい居室を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、階段、トイレ等に手すりを設置している。リビングからトイレまでご自身で行けるよう、廊下に白いテープを張るなど配慮している。		